

あこがれの北の大地での暮らしを体感

2010夏！ひがし北海道 移住体験ツアーinてしかが

町では、7月16日から18日までの3日間の日程で「2010夏！ひがし北海道移住体験ツアーinてしかが」を実施しました。北海道への移住を考えている方に町内を訪れていただき、具体的に検討していただくことを目的に開催しているもので、今回で9回目。兵庫県や島根県などから、4組7人の方が参加しました。

2日目は、移住を希望する方や実際に移住された方が多い弟子屈原野・南弟子屈・奥春別・美留和地区を見学したほか、先輩移住者のお宅を訪問。都会と田舎のギャップや、大自然の中で生活する楽しさなどについて伺いました。また、(株)リズムでしかがのガイド同行の



ガイドの説明を受けながらつじヶ原を散策

移住地や先輩移住者を訪問 自然の魅力に触れる体験も

また、物価の確認のためにスーパーを訪れました。品ぞろえには多少物足りなさもあるものの、物価は都会とそれほど変わらないなどの感想が聞かれました。



摩周厚生病院を見学する参加者

初日は、町内の生活関連施設の見学を行いました。医療施設見学として摩周厚生病院を訪問。担当者の案内のもと、施設内を見学しました。

生活に密着した施設見学で 町の医療関係や物価を確認



「環境に優しい観光のまち」を目指して 摩周湖環境調査を行っています

貴重な湖を太古の姿で守りたい

近年、世界的に環境問題が特に注目を浴び、国内においても京都議定書の批准問題をはじめ、地球温暖化防止対策については産学官民合わせて真剣に取り組んでいます。

世界に誇るべき 摩周湖は 今どうなっている

環境問題が叫ばれる昨今ですが、本町には世界を代表する湖、摩周湖があり、1931年に観測された透明度41・6が正式な記録となっており、透明度の低下や周辺の立ち枯れなどが懸念されているのも事実です。摩周湖が国連環境計画や、世界保健機構が中心となっており、国際的な水質調査対象湖として常に地球環境を監視する地点(湖)であることを含め、憂慮すべき事態です。

地球規模の問題なのか、それとも身近なところで環境に悪影響を及ぼしているのか、多くの科学者は摩周湖のような木々の立ち枯れは全国的にあまり例がないと話しています。原因究明と対応策を考えるこ

とは、世界に誇れる財産を守る上で重要なことと考えています。環境を守ることは基幹産業の発展にも欠かせない

一方で、金融危機から始まった全国的な経済の低迷は本町にとっても大きな問題となっています。北海道観光は苦戦を強いられ、阿寒湖畔・ウトロをはじめ観光地は軒並み宿泊数が減少しています。本町においても、平成21年度は前年度に対して2割程度、宿泊客数が減少しています。

このような状況の中、本町の特性である素晴らしい自然環境を守り、生かした上で、地域全体の活性化を図っていくことが急務と考えられます。特に、基幹産業であり、すそ野が広い観光産業の発展は、雇用面をはじめ消費活動など、地域経済にとって欠かすことのできないもの

自然環境は観光資源 保全策を施すことが 観光の活性化にも

本町の観光資源、つまり自然環境

下、川湯のつじヶ原散策も行い、町の大自然を体感しました。参加者は「地域の植生や生物、摩周湖の形成過程など、専門のガイドから学びながら散策でき、大変満足した」などと話していました。

北海道の住宅の構造を学び より具体的な移住の検討へ



北海道の住宅を見学

3日目は、役場の建築担当職員の説明を受けながら、川湯の敷島町営住宅を見学。北海道の住宅の断熱性や機密性について学びました。

また、コタン地区の移住地を見学したほか、同地区に実際に移住された方のお宅を訪問しました。先輩移住者からは、移住後の暮らしぶりや移住に至った経緯などについてお話を聞きました。

ツアー参加者の声



岩崎 健さん(61)・早苗さん(60)(兵庫県)

わたし(早苗さん)が北海道への移住を考えるようになったのは、3年ほど前です。北海道へは旅行で年に1回、多い時は2回ほど来ており、道内各地を巡りました。特に幻想的な冬の景色にあこがれ、川湯のダイヤモンドダストや網走の流氷を目当てに何度か冬も訪れましたが、その度に暖冬などにより、いつも空振り。それでもどうしてもあきらめきれない気持ちでしたが、兵庫県から北海道は遠く、タイミングよく来られることは少ないと思い、それならいっそのことそこに住めば、気まぐれな自然現象に合わせる事ができると思いました。そこから主人を説得して、移住計画がスタート。昨年、大阪で開催された「北海道暮らしフェア」で弟子屈町の体験ツアーを知り、今回参加しました。役場の方や地元の方からいろいろなアドバイスをいただき、さらに移住のイメージが膨らみました。わたしたちが思い描く移住生活が実現するよう、これからも夫婦で頑張っていきたいです。

3日間のツアーを終えた参加者からは「条件が合えば、すぐにも来たいが、住まいがない。これから、弟子屈を含めて道東を中心に住まいを探していきたい」「地元の方や移住者の方から、いろいろな視点に立った話を聞いて参考になった」「住まいや仕事にめどをつけたらと考えていたが、やはり難しかった。そういつた現実を知ることができたので、本当に参考になったし、ツアーに参加してよかった」といった感想が聞かれました。



先輩移住者からはアドバイスも

これまでに開催したツアーの参加者で、実際に町に移住された方も多く、町では今後も、ツアーをはじめとした移住政策に力を入れていきます。

□問い合わせ先／役場企画財政課企画係 482-2913(課直通)まで。

の尊さを再認識し「環境に優しい観光のまち弟子屈」をつくり上げていくことが今、求められています。特に、自然環境保全策が必要とされる摩周湖については、町民の皆さんをはじめ訪れる方々の理解をいただきながら、世界的にも貴重なこの湖を太古の姿で守ることが、地域の活性化に必要であると考えています。

町が取り組む調査で 摩周湖周辺の 環境変化の原因究明

町では、独立行政法人国立環境研究所・地方独立行政法人北海道総合研究機構(環境科学研究センター)・北海道大学・東京農工大学など多くの研究機関の協力を得ながら共に、科学的に摩周湖周辺の環境調査を行っています。

透明度の変化をはじめ、木々の立ち枯れなど科学的データの分析において、特に立ち枯れの原因が少しずつ判明してきています。

今後、町民の皆さんに、調査内容や研究の途中経過などを、広報紙でお知らせしていきます。

□問い合わせ先／企画財政課環境室 環境政策係 482-2913 (課直通)まで。